



12月に入って、一段と寒さが増してきました。本格的な冬の到来を感じます。体調を崩しやすい時期ですが、手洗い・うがいや規則正しい生活をしたりして、残り少ない二学期を元気に過ごせるようにしましょう。

## 「みんなのハートあつまれ！こころぽかぽか発表会」みんな素敵でした！

2日（金）に行った生活発表会、今年度も新型コロナウイルス感染症対策として、自分のお子さんの学年発表のみの参観とさせていただきました。

当日を迎えるまで、各学年で子ども達に応じた取り組みを積み重ねてきました。

年少りんご組は初めての発表会。「発表会って何？」の子ども達ですので、担任はおうちの人に見てもらうことはギリギリまで子ども達に伝えず、これまでのお神輿やお祭り、電車の遊びをつなげて劇にし、毎日劇遊びを楽しめるようにしました。りんご組の子ども達は、大好きな遊びが広い遊戯室でできるので大喜びで取り組み、のびのびとした表現を楽しんでいました。

年中き組は、園外保育に行く時にもオバケのマントを着て出かけるほどオバケの遊びに夢中でした。「こんなオバケの絵を描きたい」「オバケはこんな風に動くよ」など子ども達のオバケのイメージを担任は上手く取り入れ、大道具や小道具も子ども達と一緒に作り、き組の劇ができあがりしました。き組は8人のクラスです。保育室では元気が良くても、広い場や大勢の人の前では緊張しやすい傾向がありました。そこで担任は、セリフを2人で言ったり、同じような繰り返しの動きやセリフの出番にするなど子どもにわかりやすい構成にし、楽しみながら意欲をもって発表できるようにしました。セリフや動きを覚えると、俄然やる気が出て元気いっぱい劇を楽しんでいました。

年長あお組は、園外保育で見たり、試行錯誤しながら作って遊んだ大好きな飛行機からイメージを広げて劇のストーリーを担任と一緒に考えました。最初は、動きもセリフの声も小さかったのに、友達と一緒に毎日取り組む中では、「もっと声を大きくしよう」「手の動きが難しいなあ」など、自分なりの課題をもつようになりました。その課題を翌日の劇で修正したり、セリフの自主練習として「園長先生、聞いてください」と職員室へやってきて言ったりする意欲的な姿へと変わっていきました。そして、みんなが自信をもって堂々と自分達の劇を創りあげてきました。劇中の歌もお気に入りとなり、生活のふとした時や降園時に友達と声を合わせて歌う心地よさも感じてきました。合奏は、いろいろな楽器に親しみ、最終的には自分のやりたい楽器を決めてリズムを覚え、一生懸命取り組みました。クラスのみんなと素敵な発表にしようという子ども達の意欲が感じられました。

発表会当日、保護者の方を前に、緊張したり、逆に、嬉しくてテンションが上がっている子もいました。でも、どのクラスの発表もこれまで取り組んできた楽しさや頑張りを感じられました。そして、何より一人一人がとても輝いていました。その子ならではの確かな成長が見られる発表会だったと思います。当日は全員出席でした！保護者の皆様には、お子さんの体調管理や発表会に向けての様々な気持ちを受けとめていただき、本当にありがとうございました。

保護者の皆様からあたたかい感想をたくさんいただきました。「初めての発表会、とても可愛らしかった」「普段の幼稚園生活を楽しんでいる様子が伺えた」「年少の時の発表会より、声も大きくて、立ち位置も覚えていて成長が見られた」「我が子だけでなく、みんなが生き生きと一生懸命この劇を頑張ろうという気持ちが伝わってきた。年長組のこの団結力はすごい！」「幼稚園最後の発表会、3年間でいろいろなことを経験して大きくなったなあとしみじみ感じた」「幼稚園最後の発表会、それぞれが『小学校でも元気に頑張れるよ』と言っているように“強さ”を感じた”・・・書ききれませんが、本当にありがとうございました。



「りんご祭りの踊り、楽しいね」年少児



「オバケのお鍋で何ができるかな？」年中児



「みんなと心を合わせた合奏」年長児

## 電車に乗って園外保育へレッツゴー！

生活発表会も無事終わり、ホッとしたところで、今年を締めくくる園外保育に出かけました。今回は電車の旅を計画しました。雲州平田駅まで歩き、一畑電車に乗って出雲市駅へ行って、幼稚園バスで科学館へ行き、帰ってくる、という初めてのパターンです。出かけに雨が降ったので急遽カッパを着ての徒歩となりましたが、年少・年中児は年長児に手をつないでもらってしっかり歩くことができましたよ。

出雲市駅に着くと、お目当ては駅構内にあるたこ焼き屋さんへ。今日のお楽しみの一つは、『たこ焼き屋さんでたこ焼きを買って食べる』ことでした。クラスごとに「タコ焼きをください」とお店の人に言って嬉しそうに受け取っていました。その後、迎えに来てもらっていた幼稚園バスに乗って科学館へ行きました。2階のウッドデッキでお待ちかねのおやつタイム。自分達で買ったたこ焼きを1個ずつミニ紙コップに入れてもらい、食べました。「美味しいね」「ほっぺが落ちそう」「おかわりがほしいなあ」と、とても喜んで食べました。たこ焼きでおなか満腹したら、科学館の常設コーナーで遊びました。他に来館者もいなくて、思う存分楽しみました。

いつもと少し趣向が違う園外保育に、子ども達は園に帰ってからも「あー、楽しかった」「タコ焼き、すごく美味しかったね」と、楽しさの余韻が残っていたようです。



「オレンジ色の電車に乗ったよ」



「タコ焼きをください！」



「出雲市駅って大きいね」



「タコ焼き、柔らかくておいしい！」



「科学館、楽しいね。これ、不思議だね」

## 自分なりの課題をもつということ・今の自分より少し頑張ろうとすること

上記に生活発表会のことを書きましたが、この活動で子ども達の育ちや学びについてももう少し書きたいと思います。年長児は日を追うにつれ、みんなで劇をした後「どうだった？」という振り返りの時に、自分のセリフや動きについて「もっとこうすれば良かった」という子どもが増えてきました。そして、担任に動きを見てもらったり、私にセリフを聞いてもらったりする自主練習の姿が見られ、次の日に生かそうとしていました。これは、『今日の自分より明日の自分が素敵になるように』『自分が頑張ることであお組の劇がもっと素敵になるように』という気持ちや意欲が育ってきたからだと思います。年中児は、そんな年長児の姿を見て「ぼく達もセリフを言うから聞いて」と、給食後に職員室へやってくるようになりました。その成果が、元気のいい声となって表われました。人前でセリフを言う恥ずかしい気持ちを乗り越えようと、今の自分より少し頑張ろうとしたのだと思います。年少児は、クラスのみんなで表現する楽しさを味わいながら、グループの友達と一緒に動いたり短いセリフを言ったり、出番ではない時には静かに待ったり・・・と、初めての劇の発表で様々なことを学びました。

よく私たちは「もっと大きな声で言うと後ろまで聞こえるよ」と励ましますが、これは子どもにとっては結構大変なことではないかなと最近思い始めました。セリフを覚えるのが苦手だったり、大きな声を出しているつもりなのに声が通りにくかったり、恥ずかしかったり……。子どもは劇の中で葛藤しているのではないのでしょうか。それでも最終的に元気よくセリフが言えたのは、「大好きな友達と一緒にと言える」「友達が近くにいてくれると安心して一人でも言える」と、年齢の発達に応じて段階を追った安心感をもちながら、セリフも言えるようになったと感じます。

また、年長児の月に1回の『きらりん挨拶隊』でのことです。5月から毎月行っていますが、12月の『きらりん挨拶隊』は、私が近くにいないくても、声をかけなくても、良い姿勢で登園する友達を迎え、「おはようございます」と元気よく挨拶をし、帰られる保護者には「さようなら」と言い、しっかりお辞儀をするという姿が見られました。これは、いろいろな活動や体験を通して、どうい挨拶をしたら気持ちが良いか、自分たちなりに考えたのでしょう。

このように、『自分なりの課題をもってやってみようとする意欲』『少し難しいけど頑張ってみようとする気持ち』は、これから成長していくうえでとても大事なことだと思います。小学校の学習にもつながっていきます。こうした意欲や気持ちが育ってきている平田幼稚園の子ども達の成長を本当に嬉しく思います。

